

環境報告書 2003



mitsubishi motors

三菱自動車工業株式会社（三菱自動車）と三菱ふそうトラック・バス株式会社（三菱ふそう）は、自社の企業活動が環境に与える負荷と、それらを低減するための様々な取り組みに関して、当社を取り巻くステークホルダー（利害関係者）の皆様に向けた情報開示を主目的に、本報告書を継続的に発行しています。（2003年1月、三菱自動車のトラック・バス事業が三菱ふそうとして独立しましたが、この「環境報告書2003」は、2社の合同で発行しています。）

**報告対象期間**



基本的に2002年度（2002年4月1日～2003年3月31日）の1年間です。それ以前から継続的に実施されている活動の紹介や、データの経年変化を示す場合など、必要と考えられるものについては2001年度以前の情報も記載しています。また、本報告書発行までの最新状況を盛り込むため、2003年4月以降の情報も一部含んでいます。

**報告対象範囲**

三菱自動車及び三菱ふそうの、日本国内における環境関連情報が中心です。企業活動全体を通じた環境負荷や環境保全活動を、クルマのライフサイクルに沿った形で解説しています。

また、経済活動・社会活動に関する主だった情報についても記載しています。なお、国内・海外の関連会社の関連事項も一部含んでいます。

本報告書の作成にあたっては、環境省発行の「環境報告書ガイドライン（2000年度版）」を参考にして、掲載内容の充実化や、わかりやすさの向上などに努めました。

	
<b>商号</b>	
三菱自動車工業株式会社 (MITSUBISHI MOTORS CORPORATION)	三菱ふそうトラック・バス株式会社 (MITSUBISHI FUSO TRUCK & BUS CORPORATION)
<b>設立</b>	
1970年(昭和45年)4月22日	2003年(平成15年)1月6日
<b>本社(2003年5月～)</b>	
〒108-8410 東京都港区港南二丁目16番4号 TEL 03-6719-2111(大代表)	〒108-8285 東京都港区港南二丁目16番4号 TEL 03-6719-4601(総務部直通)
<b>資本</b>	
252,201百万円	20,000百万円
<b>目的</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.自動車及びその構成部品、交換部品並びに付属品の開発、設計、製造、組立、売買、輸出入その他の取引業。</li> <li>2.農業機械、産業用エンジン等及びその構成部品、交換部品並びに付属品の開発、設計、製造、組立、売買、輸出入その他の取引業。</li> <li>3.中古自動車及びその構成部品並びに交換部品及び付属品の売買。</li> <li>4.計量器等の販売。</li> <li>5.損害保険及び自動車損害賠償保障法に基づく保険の代理業。</li> <li>6.金融業。</li> <li>7.前各号に付帯関連する事業。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.トラック、バス、商用車その他の自動車並びにその構成部品、交換部品及び付属品の開発、設計、製造、組立、売買、輸出入その他の取引業。</li> <li>2.農業機械及び産業用エンジン等並びにその構成部品、交換部品及び付属品の開発、設計、製造、組立、売買、輸出入その他の取引業。</li> <li>3.中古のトラック、バス、商用車その他の自動車並びにその構成部品、交換部品及び付属品の売買。</li> <li>4.計量器、測定器、分析機器等精密機械器具の販売。</li> <li>5.損害保険及び自動車損害賠償保障法に基づく保険の代理業。</li> <li>6.金融業。</li> <li>7.前各号に付帯関連する事業。</li> </ol>
<b>従業員数</b>	
13,258名	4,307名
<b>売上高(連結)</b>	
38,849億円(乗用車事業 31,606億円、トラック・バス事業 7,243億円)	
<b>ホームページアドレス</b>	
<a href="http://www.mitsubishi-motors.co.jp/">http://www.mitsubishi-motors.co.jp/</a>	<a href="http://www.mitsubishi-fuso.com/">http://www.mitsubishi-fuso.com/</a>

ガイドラインの項目	主な該当ページ
<b>基本的項目</b>	
経営責任者緒言	P.2/P.66
報告に当たっての基本的要件	表2/P.19/P.57 アンケート/表3/表4
事業概要等	表2/P.4~11/ P.57/P.64~65
<b>環境保全に関する方針、目標及び実績等の総括</b>	
環境保全に関する経営方針・考え方	P.2/P.12/P.66
環境保全に関する目標、計画及び実績等の総括	P.2~3/P.14~16/ P.66など
環境会計情報の総括	P.20~21
<b>環境マネジメントに関する状況</b>	
環境マネジメントシステムの状況	P.13/P.17~18/ P.20/P.25
環境保全のための技術、製品・サービスの環境適合設計等の研究開発の状況	P.23/P.36~42/ P.45~46/ P.48~49
環境情報開示、環境コミュニケーションの状況	P.19/アンケート
環境に関する規制遵守の状況	P.18/P.29~31/ P.58~63
環境に関する社会貢献活動の状況	P.19~20/P.53
<b>環境負荷の低減に向けた取組の状況</b>	
環境負荷の全体像	P.22/P.25
物質・エネルギー等のインプットに係る環境負荷の状況及びその低減対策	P.26/P.28/P.45/ P.48/P.58~63
事業エリアの上流での環境負荷の状況及びその低減対策	P.24
不要物等のアウトプットに係る環境負荷の状況及びその低減対策	P.26~31/ P.58~63
事業エリアの下流での環境負荷の状況及びその低減対策	P.34~49/P.56
輸送に係る環境負荷の状況及びその低減対策	P.32~33
ストック汚染、土地利用、その他の環境リスク等に係る環境負荷の状況及びその低減対策	P.18/P.30~31

ごあいさつ	P.2
環境報告書 2003 概要	P.3
<b>経済活動</b>	
経営方針	P.4
2002年度業績の概要	P.7
国内での活動	P.8
海外での活動	P.10
グループ企業の状況	P.11
<b>環境活動 環境マネジメント</b>	
環境指針	P.12
組織体制	P.13
環境サステナビリティプラン	P.14
関連会社の取り組み	P.17
ISO14001への取り組み	P.17
環境監査	P.18
緊急時対応、環境に関する事故など	P.18
コミュニケーション	P.19
社内教育/啓発	P.20
環境会計	P.20
<b>環境活動 環境負荷低減への取り組み</b>	
[1] 開発・設計	P.23
[2] 調達	P.24
[3] 生産	P.25
[4] 物流	P.32
[5] 販売	P.34
[6] 製品の使用	P.35
[7] リサイクル	P.43
[8] オフィスにおける環境保全活動	P.49
<b>社会活動</b>	
お客様との関わり	P.50
製品を通じたバリアフリーへの取り組み	P.52
地域社会への貢献	P.53
スポーツ活動	P.54
従業員との関わり	P.55
<b>付録</b>	
新型車の環境情報	P.56
主要事業所・関連会社一覧	P.57
製作所レポート	P.58
関連会社の環境データ	P.62
環境活動の歴史	P.64
三菱自動車/三菱ふそうの環境保全活動について	P.66
アンケート	

## ごあいさつ

世界を取り巻く環境汚染・資源枯渇 ―― これを払いのけるには、従来の大量生産・大量消費・大量廃棄の社会から「持続可能な社会」への抜本的な転換が必要であるということは、もはや世界の共通認識となっています。そして、そのような社会を築く一つの条件として、企業に対しては、経済・環境・社会の領域においてバランスをとった活動、いうなれば「持続可能な経営」が求められています。

一方、自動車は先進国の交通・物流面で大きな社会的役割を担っており、今後は途上国での台数が飛躍的に増えることが予想されています。しかし私たちは、自動車の世界的普及が環境汚染・地球温暖化の拡大を招き、逆に自動車の存在が社会から否定されるような事態になるのを防ぐため、できる限りの施策を実行する必要があります。

こうした中、三菱自動車はこの度、企業としての「ビジョン」及び「ミッション」を新たに策定しました（詳しくはP.4をご参照下さい）。これは、三菱自動車がどんな企業であり、企業として何を指すかを定義しており、これからの三菱自動車にとって、最も基本的かつ重要なものです。そして、ビジョン・ミッションには「環境の保全・向上」「社会との共生」という理念が織り込まれており、我々が最も大事にすべきものの一つとして規定されています。


また、2002年に策定した中期環境行動計画「環境サステナビリティプラン」を、このビジョン・ミッションにおける環境理念を実現するための具体的行動計画として位置付けました。

車がその一生の間に環境に与える影響（エネルギーや資源の消費、温暖化ガスや環境負荷物質の排出など）を低減させるべく、環境に関するサステナビリティ（持続可能性）を意識した企業活動を、行動計画に従い着実に進めています。計画1年目となる2002年度の活動成果については、P.15～16など、本書にてできる限り詳しく報告しています。

三菱自動車は、今後も引き続き環境サステナビリティプランの確実な実行を約束するとともに、その進捗状況や成果を積極的に公開していきます。そして私たちは、自らのミッションを着実に達成し、ビジョンを具現化していくことが、企業としての社会的責任を果たし、持続可能な社会の構築への一助になるものと信じています。

三菱自動車工業株式会社  
取締役社長  
最高経営責任者（CEO）

ロルフ・エクロート



三菱ふそうは本年1月6日に三菱自動車のトラック・バス部門が独立した新しい会社ですが、昨年にはふそうブランド70周年を迎えた歴史のある会社です。

三菱ふそうの主要製品でありますトラック・バスは、物流や人の移動の重要な手段として現代社会を支える重要な輸送手段です。一方、大気環境改善のための排出ガス低減、地球温暖化防止のための燃費向上、資源の枯渇防止のためのリサイクル率向上など、大量生産・大量消費・大量廃棄の社会から「持続可能な社会」への転換が求められており、三菱ふそうとしても社会的責務を果たすため、生産から廃棄まで環境に配慮した製品づくりに鋭意努力しております。

このような状況の中、社会に貢献していく一人前の企業として認めていただくために、環境への取り組みは重要な項目と認識しております。具体的には、2002年に三菱自動車と共に策定した中期環境行動計画「環境サステナビリティプラン」を自社の取り組みとして発展させ、ダイムラークライスラー社との協業によるシナジー効果を最大限生かし、安全および快適性はもとより、

排出ガス、燃費、リサイクル性に優れたトラック・バスを適正な価格でお客様に提供してまいります。

これからもスリーダイヤのもと三菱自動車と共に環境への取り組みに尽力していくことをお約束いたします。

三菱ふそうトラック・バス株式会社  
取締役社長  
最高経営責任者（CEO）

ヴィルフリート・ポート



# 環境報告書 2003 概要

2002年度における、三菱自動車／三菱ふそうの経済・環境・社会活動の主な内容を紹介します。

## Economic Activities

### 経済活動

詳細：P.4～11

#### ■ 三菱ふそうの設立 ————— P.5

2003年1月、三菱自動車のトラック・バス部門を分社し、新会社「三菱ふそうトラック・バス株式会社」を設立しました。

#### ■ 2002年度の業績 ————— P.7

連結の売上高は3兆8,849億円で前年度を大きく上回り、当期利益は過去最高の374億円となりました。

#### ■ 2002年度の主な新型車 ————— P.9

「コルト」「ランサーカーゴ」「キャンター」等の新型車を発売しました。

## Environmental Management

### 環境活動 環境マネジメント

詳細：P.12～21

#### ■ 環境サステナビリティプラン ————— P.14

2002年度から計画をスタートさせ、1年目の活動を着実に進めました。

#### ■ 2002年度環境会計 ————— P.21

企業活動における環境負荷の低減・抑制のため、総額452億円の環境保全コストを費やしました。

## Measures to Reduce Environmental Impact

### 環境活動 環境負荷低減への取り組み

詳細：P.22～49

#### ■ 生産工程におけるエネルギー使用量 ————— P.26

エネルギー総使用量(CO<sub>2</sub>総排出量)は506千t-CO<sub>2</sub>となり、前年度比で1.7%低減となりました。

#### ■ 低排出ガス車の普及推進 ————— P.38

「コルト」が「超-低排出ガス」の認定を取得し、2002年度に販売したガソリン車(三菱ふそう系は除く)の約80%が低排出ガス車となりました。

#### ■ ハイブリッド路線バスの運行 ————— P.40

2002年6月から「エアロスターノンステップHEV」の一般バス路線でのモニター運行を開始しました。

#### ■ エクリプスEV「四国EV駅“電”」に参加 ————— P.42

実験用試作車「エクリプスEV」が、東京の三菱自動車本社から、愛媛県新居浜までの815kmを走破しました。

#### ■ 欧州リサイクルでのダイムラークライスラー社との協業推進 ————— P.44

欧州における、使用済自動車を引き取るための体制を、提携企業のダイムラークライスラー社と協力して構築していくことに合意しました。

#### ■ エアバッグ布端材キャニスタケースの開発 ————— P.45

部品メーカー・材料メーカーと共同で、エアバッグ布端材の再生材を使用したキャニスタケースを世界で初めて開発しました。

## Social Activities

### 社会活動

詳細：P.50～55

#### ■ 「ノンステップバス」ラインナップの充実 ————— P.53

国内初の全幅2mクラスの小型ノンステップバス「エアロミディME」を発売し、大型から小型までノンステップバスのフルラインナップが完成しました。

#### ■ 「パリダカ」3連覇を達成 ————— P.54

2003年ダカールラリー(通称パリダカ)において、パジェロエボリューションを駆る増岡浩が2年連続の総合優勝を果たしました(三菱自動車としては3年連続8度目の総合優勝)。